

講演抄録

『義歯分野における、デジタル化の現状について』

我が国の総人口は減少を続けている一方で、65歳以上の高齢者は増加しており、2040年には3,900万人に達し、総人口の約35%を占めると予測されている。義歯需要が高まる中、製作する歯科技工士は減少傾向にあり、昨年度の国家試験合格者数は僅か684人という危機的な状況となっている。

このような局面で義歯の安定供給を確保するためには、デジタル技術による生産性の向上が必須と考える。しかし、軟組織をベースとする義歯分野のデジタル化は、依然としてさまざまな製作上の課題が存在しており、従来技術で対応した方が、結果として良好な場合も多い。

それでもなお、デジタル化には「設計の数値化」「品質の平準化」「正確な情報共有」「生産性の向上」など多くの利点があるため、弊社ではこれらのメリットを活かし、積極的にデジタル技術を導入して日常臨床に対応している。

そこで本講演では、当社における義歯のデジタル化の現状について、臨床例を踏まえながら解説させていただく。

鈴木 啓太（歯科技工士） 株式会社横浜トラスト歯科技工研究所 専務取締役

【所属学会】一般社団法人 日本デジタル歯科学会（デジタル歯科技工技術認定士）
有床義歯学会 Japan Plate Denture Association

【所属団体】一般社団法人 日本歯科技工所協会
一般社団法人 神奈川県歯科技工士会

〔Profile〕

2007年 新東京歯科技工士専門学校 卒業

2007年～2017年 二箇所の技工所で研鑽を積む

2017年 株式会社 横浜トラスト歯科技工研究所 入社

2023年 株式会社 横浜トラスト歯科技工研究所 専務取締役就任

第9回日本国際歯科大会 テクニカルコンテスト 補綴装置部門 最優秀賞受賞

日本デジタル歯科学会・第14回学術大会歯科技工コンペディション優秀賞受賞

演者紹介

2017年に株式会社横浜トラスト歯科技工研究所に入社。当時から、「自費技工に携わりたい」という強い思いがあった。そんな時に、金属床義歯のデジタル化に活路を見出し、苦勞の末、ワックスミリングによる製作システムを確立させた。今では、日常臨床に加え、講演や執筆等の依頼を頂く機会も増え、やりがいを感じながら、充実した日々を送っている。